



# 令和2年度行政評価（令和元年度対象）シート

## 政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

### 施策602 文化・芸術活動の振興

主担当課：生涯学習課

#### ○施策の目指す姿

文化や芸術にふれる機会が充実し、明るく、楽しく、健康で豊かな生活が創造されています。

#### ○施策の展開

- 1 芸術劇場等の開催
- 2 地域の歴史・文化の啓発
- 3 文化・芸術活動を行う団体への支援
- 4 魅力ある美術館づくり
- 5 絵画トリエンナーレの開催

#### ○令和2年度 事務事業評価実施事業（令和元年度対象）

- 1 文化活動費
- 2 文化協会補助金
- 3 夢広場はるひ費
- 4 絵画トリエンナーレ開催費

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

#### ○施策の関連データ

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
美術館来館者数（人）※清須市調べ	16,782	15,371	14,264	10,902	10,767
トリエンナーレ応募者数（人）※清須市調べ	第5回（平成17年度） 338	第6回（平成20年度） 390	第7回（平成23年度） 491	第8回（平成26年度） 506	第9回（平成29年度） 637

#### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 市民が良質な文化・芸術を鑑賞できる機会を提供するため、「芸術劇場」を毎年開催している。
- 文化・芸術活動を行う各種団体においては、会員の高齢化が進行していることから、若い世代が文化・芸術にふれる機会づくりを積極的に行うことにより、文化・芸術活動を担う若い人材を育てる必要がある。
- はるひ美術館では、地域に根ざした芸術活動の拠点として、魅力ある美術館づくりを進めるとともに、その魅力を積極的に発信する必要がある。
- はるひ美術館では、全国公募の絵画展「はるひ絵画トリエンナーレ」をこれまでに9回開催し、国内でも広く知られる絵画展となっているが、今後は継続の意義を含め、内容や規模の検討を進めながら、はるひ美術館の特色を生かして文化・芸術活動の振興を図る必要がある。
- はるひ美術館の収蔵庫の収納能力が限界になったため、有限なスペースを考え、慎重に収集作品の選定にあたり、収納場所の整備についても検討していく必要がある。

## II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成状況
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
市民満足度調査における満足度	24.4% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	23.1% (平成30年度)	—	▲
美術館の来館者数	16,782人 (平成27年度)	18,000人 (令和元年度)	14,264人 (平成29年度)	10,902人 (平成30年度)	10,767人 (令和元年度)	▲

前期計画期間の達成状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 美術館の来館者数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館措置の影響などにより、目標値を下回った。</li> <li>■ 特に3月は貸館期間で観覧料が無料であることから、例年多くの来館者が見込まれる期間であったが、当月の休館により、前年度の同期間と比較して約3,300人のマイナスとなった。</li> <li>■ 来館者一人一人の満足度は高く、アンケート・SNS等でも幅広い年齢層から良好な反応を得られている。</li> </ul>
----------------	---

## III 令和元年度の主な取組結果

- 【文化活動費】
- 清須市文化協会との協力により、納涼盆踊り（8月）、カラオケ発表会（9月）、文化展（11月）、芸能発表会（11月）、囲碁・将棋大会（1月）を開催。
- 清洲市民センターで芸術劇場「きよす寄席」（3月）（あいち朝日遺跡ミュージアム開館プレイベントの一環）の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止。
- 【文化協会補助金】
- 上記のイベントを開催した他、広報紙「文協だより」を年1回発行、愛知県文化協会連合会諸行事に参加。
- 【夢広場はるひ費】
- はるひ美術館で特別展・企画展等を開催。※開館20周年記念
  - ・特別展※「みんなと絵本とMAYA MAXX」
  - ・企画展「特別展示 復刻浮世絵の世界」、※「清須ゆかりの作家 岡崎達也展 セラミックデザインとクラフト」、※「嗅覚のための迷路」、※「清須市はるひ絵画トリエンナーレアーティストシリーズVol.90～Vol.92」
  - ・収蔵作品展※「はるひ美術館の足跡」、※「清須市はるひ美術館新収蔵作品展「つなげる、過去から未来へー作品の修復ー」

## IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成30年度	令和元年度	R1目標値	R1実績値と達成状況		R1目標値	R1実績値と達成状況	
文化活動費	5,168 [99.9]	4,980 [96.3]	芸術劇場の観覧者数（人） 300   —   —			芸能発表会の観覧者数（人） 600   600   ○		
事業の有効性の評価	芸術劇場や芸能発表会、文化展、納涼盆踊りなど、市民に優れた文化・芸術鑑賞の機会を提供するとともに、各種市民団体の発表の場づくりを行うことにより、市民の文化・芸術活動の振興を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	清須市文化協会などの市民団体と協力して事業を実施することにより、効率的な事業実施に努めた。							
文化協会補助金	3,108 [100.0]	2,877 [100.0]	文化協会の会員数（人） 1,370   1,370   ○			文化協会の加盟クラブ数（団体） 96   93   ▲		
事業の有効性の評価	清須市の芸能文化の発展を積極的に展開する清須市文化協会の活動を支援することにより、市民の自主的な文化・芸術活動を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	清須市文化協会の各種活動に係る事業費に対して、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。							
夢広場はるひ費	137,697 [100.0]	137,333 [99.9]	美術館の収蔵点数（点） 230   226   ▲			展覧会の開催回数（回） 6   7   ◎		
事業の有効性の評価	指定管理者の持つノウハウを活用してはるひ美術館を運営することにより、積極的な情報発信を通じて市民の美術館利用が促進されるとともに、魅力のある企画展の開催やそれに伴うイベントの実施などにより、市民が良質な芸術を鑑賞できる機会を提供することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	夢広場はるひについて、一括して指定管理者制度を導入していることにより、民間の柔軟なノウハウを生かした事業を展開することができるため、経費の縮減を図りつつ充実したサービスの提供ができた。また、日本ではほとんど知られていない新たなアートの可能性を紹介する企画展示を開催するなど、当館の個性を生かした運用を行った。							
絵画トリエンナーレ開催費	3,981 [95.0]	385 [53.3]	絵画トリエンナーレの応募者数（人） —   —   —			絵画トリエンナーレの応募点数（点） —   —   —		
事業の有効性の評価	絵画トリエンナーレを開催することにより、市民に優れた絵画を鑑賞する機会を提供することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	令和2年度に開催予定の第10回はるひ絵画トリエンナーレをより良いものにするため、実行委員会を開催し、応募要項や実施内容について審議を行った。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 市民に優れた文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、文化団体の育成などを通じて、文化活動の成果の発表機会の充実を推進しているものの、文化団体は高齢化が進んでいることから、今後も各種イベントを通じて、若者・子どもを含めた市民が身近に文化・芸術に触れる機会を積極的に提供していく。
- 全国公募の「はるひ絵画トリエンナーレ」は美術館の開館当初から開催している事業である。県内に数多ある美術館の中で、はるひ美術館が評価されているのは、展覧会企画だけでなく、新進作家の発掘と育成という特徴的な理念を掲げているためであり、また、トリエンナーレの実施により小規模ながらも美術館の実績・知名度・収蔵作品の量と質を確保してきた。しかし、トリエンナーレ開始当初から事業を取り巻く環境などが変化していることから、事業の内容等について検討していく必要がある。
- はるひ美術館では雨漏りがあるほか、部品の調達に難しい空調設備も老朽化していることから、計画的に施設・設備の修繕を進める必要がある。

# 令和2年度行政評価（令和元年度対象）シート

## 政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

### 施策603 文化財保護の推進

主担当課：生涯学習課

#### ○施策の目指す姿

市内に存在する文化財の保存と活用が適切に行われ、地域の歴史・文化が継承・発信されています。

#### ○施策の展開

- 文化財の適切な保護
- 文化財保護の啓発
- 歴史資料の公開・展示
- 指定文化財の修理等への支援
- 朝日遺跡の活用

#### ○令和2年度 事務事業評価実施事業（令和元年度対象）

- 文化財保護事業費
- 歴史資料展示室費
- 指定文化財補助金

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

#### ○施策の関連データ

歴史資料展示室来場者数（人）※ 清須市調べ	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	14,998	15,914	16,300	15,772	12,425
文化財講演会の参加者数（人）※ 清須市調べ	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	92	44	67	40	69

#### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 毎年開催している文化財講座や文化財講演会においては、一定の参加者があり、地域の文化財や歴史・文化資源に対する関心は高い状況にある。
- 図書館内の歴史資料展示室では、多様な企画展示により、市民が文化財にふれる機会を提供している。
- 高齢化の進行などにより、山車をはじめとする文化財を後世に継承する担い手が不足している。
- 県は、朝日遺跡の価値・魅力の発信や文化活動、地域連携の拠点とするため、平成28年3月に「愛知県清洲貝殻山貝塚資料館拡充整備基本構想」を策定し、令和2年度のあいち朝日遺跡ミュージアムオープンに向けた取組を進めている。
- 市指定文化財は29件となっている。

## II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画 目標値	実績値			目標値の 達成状況
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
市民満足度調査における満足度	25.0% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	23.7% (平成30年度)	—	▲
歴史資料展示室の来場者数	14,998人 (平成27年度)	20,000人 (令和元年度)	16,300人 (平成29年度)	15,772人 (平成30年度)	12,425人 (令和元年度)	▲

前期計画期間の達成状況の分析

- 歴史資料展示室について、令和元年度は、あいち朝日遺跡ミュージアム開館イベントとして「朝日遺跡への招待—清洲貝殻山貝塚資料館からあいち朝日遺跡ミュージアムへ—」（1～3月）を開催した。
- 愛知県教育委員会から貝殻山貝塚周辺の遺物を中心に朝日遺跡出土品を借用して展示を行い好評であったが、全体を通してみると来場者数は減少した。これは、7～8月の猛暑に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月5日以降閉館となったことが大きく影響したと考えられる。
- 目標値を達成することができるよう、今後も継続して市所有の文化財などを活用し、郷土の歴史・文化にちなんだ魅力ある企画展を開催していく。

## III 令和元年度の主な取組結果

- 【文化財保護事業費】
- 清洲市民センターで文化財講演会「地図から考える濃尾平野の城・町・川—清須城下町を中心に—」を開催（2月）。
- 文化財講座を開催（全4回、参加者延べ153人）。
- 【歴史資料展示室費】
- 歴史資料展示室で「入れものいろいろ～機能・素材を生かす～」(4月～9月)、「箕浦コレクションの世界Ⅱ～工芸品～」(9月～12月)、「朝日遺跡への招待—清洲貝殻山貝塚資料館からあいち朝日遺跡ミュージアムへ—」(1～3月)の年間3回の企画展を開催。「朝日遺跡への招待—清洲貝殻山貝塚資料館からあいち朝日遺跡ミュージアムへ—」は、あいち朝日遺跡ミュージアム開館イベント特別企画展として開催。
- 【指定文化財補助金】
- 市指定文化財に対して、修理4件(問屋町頼朝車・東六軒町泰亨車・西六軒町紅塵車・杵西町頼光車)、管理13件、公開5件(尾張西枇杷島まつり)、文化財保存施設整備1件(問屋町山車蔵)を対象として補助を実施。

## IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成30年度	令和元年度	R1目標値	R1実績値と達成状況	R1目標値	R1実績値と達成状況		
文化財保護事業費	210 [99.8]	420 [94.7]	文化財講座の開催回数（回）			文化財講演会の参加者数（人）		
			4	4	○	150	69	▲
事業の有効性の評価	市内全域に存在する様々な文化財を保護するとともに、文化財講座などの啓発事業を実施することにより、市民が郷土の文化財の素晴らしさを再認識し、地域の歴史や文化に対する理解や文化財保護の意識を高めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	文化財講座や講演会の講師については、県文化財室や県埋蔵文化財センターなどの関係機関と連携するなど、効率的な事業実施に努めた。							
歴史資料展示室費	1,451 [100.0]	1,526 [99.5]	企画展の開催日数（日）					
			260	252	▲			
事業の有効性の評価	燻蒸の実施など、適切な保存を行うことにより、歴史資料の劣化を防止することができる。また、歴史資料展示室において企画展を開催し、市民が歴史資料にふれる機会を提供することにより、市民の文化財に対する関心を高め、地域の歴史・文化の継承につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	寄贈され市所有となった文化財資料などを活用して展示を行うなど、効率的な事業実施に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響により3月5日以降閉館となったため、企画展の開催日数は目標値を下回った。							
指定文化財補助金	8,333 [97.1]	15,132 [97.5]	指定文化財の修理に対する補助件数（件）			指定文化財の管理に対する補助件数（件）		
			6	4	▲	18	13	▲
事業の有効性の評価	指定文化財の修理、管理、公開、保存施設整備に係る費用に対して補助金を交付することにより、指定文化財を適切な状況で維持することが可能となり、貴重な文化資源の保存・継承が図られ、市の歴史・文化を市内外に発信することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	文化財所有者に随時助言・指導を行いながら、補助金交付要綱に基づいて、適正に補助を行った。修理補助に関しては、事前に修理計画書の提出を受けることにより、計画的な修繕に努めた。令和元年度は、問屋町の山車蔵整備に伴い、文化財保存施設整備補助を実施した。なお、修理件数は、所有者の修理計画、指定文化財の保存状況によって申請されるものであり、管理補助金は民間所有指定文化財の所有者から市施設への寄託等による辞退もある。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 文化財講演会・講座ともに受講者に大変好評だったことから、引き続き県文化財室など他機関と連携して文化財講演会・講座を開催し、郷土の歴史・文化の発信や郷土愛の高揚を図る。
- 今後も資料の適切な保全を図るとともに、市民に郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するため、歴史資料展示室で企画展を開催する。
- 令和2年度に予定されているあいち朝日遺跡ミュージアムのオープンを、地元として県と一体となって盛り上げるため、県文化財室と連携し、文化財講座での紹介やオープニングイベント等でのワークショップの実施など、朝日遺跡の活用やあいち朝日遺跡ミュージアムの積極的な周知を図る。

# 令和2年度行政評価（令和元年度対象）シート

## 政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

### 施策604 スポーツ・レクリエーション活動の振興

主担当課：スポーツ課

#### ○施策の目指す姿

スポーツ・レクリエーションの普及と振興を通じて、健康で豊かな市民生活がはぐくまれています。

#### ○施策の展開

- 市民体育祭等の開催
- 清須ウオークの実施
- スポーツ活動を行う団体への支援
- 総合型地域スポーツクラブの育成
- スポーツ・レクリエーション施設の管理・運営

#### ○令和2年度 事務事業評価実施事業（令和元年度対象）

- 清須ウオーク費
- 体育協会補助金
- 清洲勤労福祉会館費
- 新川地域文化広場費

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

### ○施策の関連データ

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
アルコ清洲利用者数（人）※清須市調べ	318,114	300,863	297,121	294,686	296,867
カルチバ新川利用者数（人）※清須市調べ	97,684	101,654	100,443	97,114	95,673

### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 清須ウオーク、市民体育祭、市民ソフトボール大会、体育協会主催の市民大会などの各種スポーツ事業を展開し、スポーツを通じた市民交流を図る機会を提供している。
- 市民の自主的なスポーツ活動の促進及びスポーツを楽しむことができる環境づくりの推進にあたっては、総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」が大きな役割を果たしており、財政面や運営面の支援をしている。
- アルコ清洲、カルチバ新川及び春日B&G体育館などの体育施設は、老朽化が進んでいるため、順次適正な改修・大規模な修繕を行っている。

## II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成状況
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
市民満足度調査における満足度	25.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	26.3% (平成30年度)	—	○
週1回以上スポーツ・レクリエーション活動を行っている市民の割合	23.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	20.0% (平成30年度)	—	▲
総合型地域スポーツクラブの会員数	340人 (平成27年度末)	450人以上 (令和元年度末)	392人 (平成29年度末)	361人 (平成30年度末)	292人 (令和元年度末)	▲

#### 前期計画期間の達成状況の分析

- 市民満足度調査において、週1回以上スポーツ・レクリエーション活動をしている市民の割合は20.0%と低い状況であることから、関係団体等との協力により、まずは気軽にスポーツを始めることができる環境づくりを進める必要がある。
- 総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」の会員数は、平成29年度から年々減少しているが、会員募集リーフレットの配布やイベントの開催などにより、スポーツクラブの認知度は高まっていると考えられる。会員の高齢化が進んでいることから、今後は若年層や子育て世代をターゲットにして、新規入会者を増やす取組を進める必要がある。

## III 令和元年度の主な取組結果

- 【清須ウオーク費】
- 清須ウオークを年2回（4月・11月）開催。（参加者：1,803人 [4月：1,066人 11月：737人]）
- 【清洲勤労福祉会館費】
- プール天井換気窓等工事、造波プールポンプ改修工事、スライダー・流水プールの材交換、非常用放送設備交換工事、ヒートポンプのオーバーホールを実施。
- 【新川地域文化広場費】
- 昇降機改修工事、プールとの出入口にある温水シャワーの交換、プール男女更衣室のロッカーの交換を実施。
- 【その他】
- 実行委員会形式により地区体育祭を開催。
- きよすスポーツクラブの会員募集、教室の開催等における支援。（通年）
- きよすスポーツクラブ啓発事業として、障がい者スポーツ交流会（1月）、スプリングフェスティバル（2月）を開催。

## IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成30年度	令和元年度	R1目標値	R1実績値と達成状況	R1目標値	R1実績値と達成状況	R1目標値	R1実績値と達成状況
清須ウオーク費	4,575 [100.0]	5,187 [88.3]	清須ウオークの開催回数（回）			清須ウオークへの協力団体数（団体）		
			2	2	○	6	8	◎
事業の有効性の評価	清須ウオークは、市のイベントとして定着しつつあり、その認知度を活かして、市の魅力を市内外の年齢層の方に向けてもらうことができ、さらに健康増進のためにウォーキングの機会を提供することができる。また、スポーツの普及・振興につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	協力団体の人材を運営スタッフとして登用し、コース内の要所に配置した。また、清須市の魅力発信につなげるコースの見直しをすることで、効果的な事業実施に努めた。							
体育協会補助金	6,029 [100.0]	6,107 [100.0]	体育協会の会員数（人）			体育協会の主催大会数（大会）		
			2,450	2,277	▲	23	23	○
事業の有効性の評価	スポーツの普及・振興活動や健康で豊かな市民生活を展開している清須市体育協会の運営支援を行うことにより、スポーツを通して快適で魅力あるまちづくりに寄与することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	各種活動に係る事業費に対し、適正な運営支援を行った。							
清洲勤労福祉会館費	185,185 [99.7]	140,241 [98.0]	アルコ清洲の利用者数（人）			指定管理者が行う自主事業数（事業）		
			335,000	296,867	▲	68	68	○
事業の有効性の評価	本市で最も利用者の多いスポーツ施設であるアルコ清洲の温水プールについて、指定管理者制度を活用して様々な自主事業を実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことにより、コストの削減を図りながら、市民に対するサービス向上を図ることができた。 ※施設修繕や新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一定期間休館したことにより、利用者数は目標値を下回った。							
新川地域文化広場費	99,527 [100.0]	113,161 [99.1]	カルチバ新川の利用者数（人）			指定管理者が行う自主事業数（事業）		
			100,000	95,673	▲	23	23	○
事業の有効性の評価	温水プールやアスレチックジムを有する体育施設であるカルチバ新川について、指定管理者制度を活用して様々な自主事業を実施することにより、市民の健康増進・体力向上に寄与するとともに、市民の交流を促進することができる。							
事業実施にあたり工夫した点	指定管理者が有するノウハウを十分に活用して施設管理を行うことにより、コストの削減を図りながら、市民に対するサービス向上を図ることができた。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一定期間休館したことにより、利用者数は目標値を下回った。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 清須ウオークが市のイベントとして定着しつつある中、平成30年度に引き続き、西枇杷島町山車保存会の協力を得て山車蔵をコースに設定したほか、新たに商工会員（尾張屋、玉露軒）の協力を得てお茶の試飲を実施するなど、魅力あるコースの設定に努めた結果、参加者は増加した。今度も各種市民団体との協働などにより、変化に富んだイベントを企画・検討していく。
- 総合型地域スポーツクラブ「きよすスポーツクラブ」は、子どもから高齢者まで気軽にスポーツのできる環境づくりの役割を担っており、今後もスポーツの裾野を広げるため、主に若年層の会員確保に努めるとともに、クラブが財政面・運営面において早期に自立できることを目指して支援を行いつつ、財源状況に見合った助成のあり方を検討していく。
- 各地区ごとで開催している「市民体育祭」や地区対抗で行う「市民ソフトボール大会」は、少子高齢化の進展や生活様式の変化などにより出場者集めが自治会役員の負担となっており、参加地区も年々減少していることから、今後は事業のあり方を検討する必要がある。
- アルコ清洲・カルチバ新川については、指定管理者制度により民間経営の発想やノウハウを活かした市民サービスの向上を図ることができている。しかし、社会体育施設は、建物・設備の老朽化が進んでいるため、計画的に改修・修繕を進める。

# 令和2年度行政評価（令和元年度対象）シート

## 政策6 豊かなところとからだをはぐくむまちをつくる

### 施策605 国際交流の振興

主担当課：生涯学習課

#### ○施策の目指す姿

市民参加による国際交流が進展し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層において国際理解に対する関心が高まっています。

#### ○施策の展開

- 1 友好姉妹都市との交流
- 2 国際理解の啓発
- 3 中学生の海外への派遣
- 4 国際交流活動を行う団体への支援

#### ○令和2年度 事務事業評価実施事業（令和元年度対象）

- 1 国際交流費
- 2 国際交流協会補助金

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

### ○施策の関連データ

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
在住外国人数（人）※清須市調べ（各年4月1日）	1,427	1,581	1,657	1,695	1,852
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
インターナショナルパーティー参加者数（人）※清須市調べ	330	330	330	364	—

### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 訪日外国人旅行者や外国人労働者が増加する中、国際理解の一層の促進が求められている。
- 本市は、スペイン・ヘレス市と友好姉妹都市提携を結んでいることから、スペイン人の国際交流員によるスペインの生活・文化の紹介やスペイン語講座、市立小学校及び保育園・幼稚園における国際理解授業などを通じて、国際理解の啓発に取り組んでいる。
- また、国際交流活動を積極的に展開する清須市国際交流協会では、市と連携して、各種講座や外国語教室、外国人を対象とした日本語教室（日本語ひろば）などを開催することで、市民参加による国際交流の進展を図っている。
- 清須市における在住外国人数は、近年、一貫して増加しており、平成31年4月の改正出入国管理法の施行などに伴って、今後もその傾向が続くことが予想されるため、生活や言語支援の体制の整備・拡充や、国籍に関わらず市民としての基本的サービスを受けることができる環境づくりなどについても、より推進していく必要がある。

## II 達成度指標の状況

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲、現状値を把握していない…ーとしている。

達成度指標	基準値	前期計画目標値	実績値			目標値の達成状況
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	
市民満足度調査における満足度	16.7% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	15.8% (平成30年度)	—	▲
市や市国際交流協会が実施する国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合	27.6% (平成28年度)	↑ (平成30年度)	—	24.7% (平成30年度)	—	▲

前期計画期間の達成状況の分析

- 市では、講座をはじめとする様々な国際交流事業を実施しているものの、第6回（平成30年度）市民満足度調査における満足度では、「どちらともいえない」と回答した人の割合が73.5%と非常に高く、またその理由としては、「よく分からない、知らない」という回答が多く見受けられた。
- また、「市や市国際交流協会が実施する国際交流に関する講座・イベント等を知っている市民の割合」についても、前回調査より2.9%減少し、前期計画の目標値を達成できなかったことを踏まえて、今後は取組が市民に認知されるよう、より積極的に周知を図る必要がある。
- 一方、重要度で「重要である・やや重要である」と回答した人の割合は41.7%となっており、前回調査より2.1%増加していることを踏まえて、今後も、引き続き社会情勢やニーズに対応した事業の実施に努める。

## III 令和元年度の主な取組結果

- 【国際交流費】国際交流員によるスペイン語入門（生涯学習講座）、国際理解（サタデーキッズクラブ）及び市立小学校・保育園・幼稚園における国際理解授業などを実施。  
【国際交流協会補助金】
- 清須市国際交流協会の活動に対する支援及び補助を実施（法人会員42団体、個人会員269人）。  
（国際交流協会が実施した主な事業：食文化講座（6月）、国際理解講座（8月）、外国料理教室（9月）、外国の遊びと日本文化体験（11月）、外国語教室（英会話・スペイン語）、日本語ひろばの開催、ユニセフコインの募金活動など。※外国料理の試食や、民族舞踊・民族音楽演奏会を鑑賞するインターナショナルパーティー（2月）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。）  
【中学校海外派遣費】
- 海外派遣研修として、市立中学校の生徒24名と引率教諭4名をオーストラリアへ派遣（8月）。

## IV 事務事業評価

※達成状況については、目標値を上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲としている。

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	平成30年度	令和元年度	R1目標値	R1実績値と達成状況		R1目標値	R1実績値と達成状況	
国際交流費	51 [14.0]	54 [89.9]	学校等における国際理解授業の実施回数（回）	95	74 ▲	友好姉妹都市提携に基づくスペイン関連事業の参加者数（人）	100	122 ◎
事業の有効性の評価	友好姉妹都市提携を結ぶスペイン・ヘレス市に関連した講座や、小学生、保育園及び幼稚園児を対象とした国際理解授業の実施などにより、幅広い年齢層の市民の国際理解に対する関心を高めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	市内の小中学校及び保育園・幼稚園を訪問して国際理解授業を実施することにより、子どもの国際理解に対する関心を深めることができた。また、サタデーキッズクラブで行ったイベント「ビバ！カーニバル」では、オリジナル仮面の制作などを通して、異文化を体験する機会を提供することができた。							
国際交流協会補助金	400 [100.0]	400 [100.0]	国際交流協会の個人会員数（人）	290	269 ▲	国際交流協会が主催する講座等の事業数（事業）	7	10 ◎
事業の有効性の評価	様々な国際交流事業を実施する清須市国際交流協会の活動を支援することにより、市民参加による国際交流の進展を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	協会が開催する会議などに市職員が参加して共有した協会が実施する講座やイベントに係る情報を、広報紙を通じて発信することにより、国際交流活動への市民の参加促進に努めた。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 友好姉妹都市提携を結ぶスペイン・ヘレス市に関連して、スペインの生活や文化を紹介するなど、引き続き幅広い年齢層が国際理解に対する関心を高めることができるような魅力ある事業の実施に努める。また、市立小学校、保育園・幼稚園で行う国際理解授業などでは、幼い頃から国際感覚を養うことを図っていく。
- 市が実施する講座などの国際交流事業については、引き続き広報紙やホームページを通じて周知を図るとともに、認知度の向上に向けて、より効果的な周知方法を検討する。
- 市民間での国際交流活動において中心的な役割を担う清須市国際交流協会については、その活動が活性化されるよう、引き続き連携を図りながら支援を行う。
- 社会経済情勢の変化などに伴って、今後も在住外国人が増加し続けることを見据えて、外国人住民に対する日常生活のサポート体制の充実や情報提供手段の拡充など、多文化共生社会の実現に向けた取組について、検討を進める必要がある。
- 令和2年度から小学校高学年において外国語教育が教科化されることを踏まえて、中学生海外派遣事業を廃止し、既存のALT（外国語指導助手）とは別に、中・高等学校英語免許状を所有した講師を新たに雇用し、専門的な指導や児童に対する評価を行う。

